

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600737	事業の開始年月日	平成27年5月1日
		指定年月日	平成27年5月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホーム みさき豊町		
所在地	(252-0305) 神奈川県相模原市南区豊町 13-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年3月18日	評価結果 市町村受理日	令和4年6月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「第二の家族」としてご入居者様の生活のお手伝いをさせて頂いております。施設周辺は坂道もなく、散歩や外出等に出やすい環境となっております。最寄りのバス停から30秒ほどで施設に到着でき、また行幸道路と言う国道16号線から海老名方面へ抜ける基幹道路に面している為、自動車でのご面会にも便利です。生活保護受給の方も受け入れており、入居しやすく長く生活していただける環境づくりに努めております。現在、ご入居されている方は7割の方が開所当時からの方で、長く過ごされております。逆に言えば空室が発生しにくい状態ではありますが、ご入居頂ければ安心して長く過ごしていただける施設です。コロナで出来る事に限りもありますが、ご入居者様、ご家族様にはご負担やご心配等、なるべくかからないように職員一同、努めております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年4月1日	評価機関 評価決定日	令和4年5月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅北口より神奈中バス「小田急相模原駅行」で「豊町」バス停下車、バス停の目の前にある木造2階建て2ユニットのグループホームです。また、相模大野駅から平坦な道が続き徒歩でも行ける利便性の良い立地にあります。建物の南西側には米軍住宅地が隣接しています。

<優れている点>

職員は、理念に基づき利用者を「第二の家族」として、また、最終章を「みさきで過ごせて本当に良かった」と本人・家族に思ってもらえる様な支援を心掛け、利用者寄り添い、意向を優先した支援に取り組んでいます。管理者は、サービス提供に当たり、「分からないことは自己判断せずとにかく「聞く」、勝手な判断で分からないまま行動しない事」を指導しています。コロナ禍でボランティアも呼べず、外出行事も出来ない状態が続いていますが、事業所内の毎月の行事やレクリエーションで工夫を凝らし、利用者が楽しく過ごせる機会を作っています。

<工夫点>

コロナ禍のため、家族の面会は居室の窓越しやオンライン面会で行っています。また、馴染みの人の面会は中止となっておりますが、面会希望の人には事情説明の上、オンライン面会を勧め、継続支援に繋げています。毎月「グループホームみさき豊町新聞」と利用者ごとに「食事、排泄、睡眠、清潔、生活面、医療面、今月の催事、連絡事項」などを記した「生活状況報告書」を家族に送付し利用者の様子を伝えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みさき豊町
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設入り口に会社の理念が掲示しており、それを念頭にご入居者様の意向を優先的に支援、介助させていただいている。	法人理念を事業所の基本理念とし、玄関ホールや事業所内に掲示し、職員、家族、来訪者などに周知を図っています。管理者と職員は、理念を共有し、利用者の意向に添った支援を心掛けています。現在、簡潔で分かりやすい事業所独自理念の作成を検討しています。	法人理念を踏まえ、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成、共有し実践に繋げられることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ対応で地域交流が取れていない。コロナ以前は地域の集まり（歌の集い等）に参加させて頂いたり、お祭りに招待されたりしていた。	コロナ禍で現在は地域交流は難しい状況ですが、コロナ禍前は、自治会館での「ほほ笑みカフェ」の参加や地域の夏祭り、餅つき大会、民謡グループや歌謡への参加、近隣の保育園児やベリーダンスなどのボランティアの来訪がありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ対応で地域との交流が取れていない。コロナ以前は地域の集まりに参加させて頂いた際に、施設の内情や、認知症対応への質問を受ける事もあり、微力ながらお力にはなれていたかと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ感染後は改正できておらず、書面での報告に留まっている。コロナ以前は自治会長や民生委員さんにご参加いただいていた。	コロナ禍で対面式の運営推進会議を書面開催とし、2ヶ月ごとに実施しています。会議メンバーへの議事録の配付は、自宅ポストへの投函やFAXで行っています。メンバーからの意見等の聴取は電話で行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護受給者がいるので担当のケースワーカーとのやり取りは行っている。また、地域包括の担当者とは運営推進会議でやり取りしている。	相模原市生活支援課や地域包括支援センターとは必要に応じ連携を取り協力関係を築いています。介護認定更新の代行申請手続きを行っています。ケースワーカーとも連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に委員会、研修を行い身体拘束の理解と排除に努めている。	身体拘束適正化委員会や研修を定期的実施し、職員の理解を深め身体拘束等をしないケアに取り組んでいます。スピーチロック（言葉の拘束）については、その都度注意するようにしています。職員に不適切な言葉や行為があった場合は、フロアリーダーや管理者が面談し、注意指導を行い改善しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様に定期的に研修等を行い防止に努めている。	管理者が虐待防止責任者となり、虐待防止委員会や研修を実施し、虐待防止チェックリストを活用し職員の理解を深め虐待防止に努めています。職員の疲労やストレスを日常的なコミュニケーションの中で把握し、不適切なケアが起きないように努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を使われているご入居者様があり、働きながら学べる機会がある。現在、申請中の方もおり、申請における手順の学びも得られる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が行ってる。契約の前のご本人面談調査や見学等の対応時や随時、ご連絡いただき疑問点や不安点を伺い解消に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアマネージャーや職員もご家族様と直接やり取りする事があり、その際にご意見やご要望を伺う事がある。	コロナ禍前は、家族の面会時や運営推進会議などで意見や要望を聞く機会がありましたが、現在は電話連絡時やケアプラン見直しの連絡時に意見や要望を聞くようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務中やその他日常の中での話の中で意見や質問を受け、対応している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見などの受入れや、職員が自由に意見や提案を記入できる「ご意見ノート」を活用し業務に反映させています。フロアリーダーが職員面談を実施し意見交換を行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則がある。勤務状況や実績は数字としての報告は上がっているので把握されている。	就業規則に則り事業所運営を行っています。適宜職員への声掛けや相談に乗るなど配慮に努め、離職の防止や定着化に繋げています。悩みや問題を抱えている職員対象に様子を見ながら面談を実施しています。ロッカールームも設置しプライバシーを配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、会社作成の研修資料を使い、回覧と言う形で研修を行っている。また、外部研修はコロナと言う事で参加していない。オンライン研修の案内はあるが、参加環境が職員によってはなく、難しい。	毎回、研修終了時に簡易テストを実施し、振り返りを行っています。実務者研修や初任者研修の資格取得制度を整備し、受講費用は事業所が全額負担し、労働時間内の研修となっています。新入職員には新人指導要綱に基づきOJTを実施し人材育成をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流は特になく、相模原市のグループホーム連絡会も未加入。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時のご挨拶や日常の会話から不安な事や要望など伺い、安心して過ごしていただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の情報や入居後のやり取りの中でご要望や不安点を伺い解消に努めている。 こまめな連絡をする事で信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン作成にも関わる事なので入居前情報の収集と合わせてニーズや希望の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事はやっていただく、と言う考えから、職員と共に家事活動等してもらい、一緒に生活している事を意識してもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の状況報告を毎月行っており、その中でご家族様に協力頂きたい事やご家族様からの要望があれば話し合い、ケアプランへと繋げている。 また、趣味嗜好など、ご本人の過去について伺い現在のケアに活かしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自治体の方とのつながりがあり、訪問面会を受けていた事もあった。	コロナ禍で現在は面会を中止していますが、希望者にはオンライン面会で実施しています。コロナ禍前は、馴染みの人の面会があり、居室や、リビングで過ごしています。馴染みの店での買い物も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様それぞれの性格や関係性を考え、席替えやお声掛けを行っている。ご自分のフリカケを仲の良い方にお勧めしたりする光景もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養に移られた方の面会に伺ったり、その際の許可取りでご家族様へ連絡したりする事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的なケアの中での会話などで要望や希望などの把握に努めている。意思疎通の難し方は日常の様子観察の中から察して情報共有し実現に向けている。	思いや意向は、入居前の本人・家族との面談時や、入居後の居室で荷物を整理している時などに聞いています。入居後は入浴時の職員との世間話や家事を手伝いながらの会話の中などで引き出すよう心掛けて支援しています。家族とも再確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報や入居後のやり取りの中で今までの生活状況や趣味嗜好の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、状態の変化がある方もおり、様子観察をしっかり行い、ご本人の残っている機能を活かしながら過ごせるように務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネ主導で職員全員でモニタリングを行い、ご入居者様の変化や状態を情報共有しケアプランへと反映させている。	更新時期には職員全員でモニタリングを行い、家族への状況報告と意向確認をし、ケアプランを作成しています。日常的に変更点や疑問点を「ご意見ノート」や「モニタリングシート」に記録しています。見直しは3ヶ月に一度実施し、状態変化に応じ随時行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の気づきなど個別の生活記録へ残していき、モニタリングやカンファレンスなどでの情報共有に役立てている。それらを基にケアプランの更新に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個人個人の状況変化に合わせてご意見ノートを使い新しいアイデアを出し合い対応している。訪問リハビリの導入検討や精神科通院を往診に切り替えたりした事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会の行事に参加させてもらったりご本人の希望の物を一緒に買いに出たりしていた。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に二回の往診がある。入居時に受診するかどうかのご判断をいただいております。入居後もご要望に応じて外部受診に切り替えり追加したりしている。	かかりつけ医の選択は本人の病状に応じて家族と相談の上決めていきます。協力医の往診結果は看護師が記録しています。薬剤師も同席しその日のうちに薬が届くこともあり、連携を取っています。外来受診の付き添いは家族対応とし、受診結果を協力医に報告して情報共有しています。歯科往診も週1回あります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の訪問時に日常の様子や特変事項を伝え、適切な支援ができるように協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院後に備えて病院ソーシャルワーカーと連絡を取り合い情報共有に努めている。またご家族様を交えて医師の説明（ムンテラ）を聞きに行く事もある。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時や入居前の面談時に説明させて頂いている。 入居後、看取りとなりそうになった段階で再度、ご説明させて頂き判断していただいている。また、それに合わせて対応させて頂いている。	入居時に看取りの指針を説明し同意を得ています。看取りのケアプランは可能な限り日常を変えず、食事は歯科医と相談し嚥下検査等で様子を見ながら対応しています。コロナ禍の面会は感染予防に留意し、玄関を通らず、直接外からベランダ側より居室に入るように工夫しています。「お別れ」は可能なら葬儀にも参加し、家族葬では見送りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に研修を行っている。また日ごろから状態把握に努めており、個人個人に合わせた対応の仕方も申し送って周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	研修や避難訓練を行っている。 コロナで消防署の立ち合いが難しい時期だが様子を見て依頼を掛けている。 自治会には非常時の避難誘導の補助をお願いしており、反対に余裕がある場合はこちらも協力する（避難所的に使ってもらうなど）話になっている。	避難訓練は年2回実施しています。コロナ禍で今年は消防署の立ち合いはしていません。消防からは訓練回数の増加、地震等にも配慮するよう指導を受けています。備蓄品は3日分を確保し保管期限管理しています。連絡名簿を作成し連絡体制を整備していますが、職員のグループLINEで早急に連絡が取れる仕組みにもなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けの仕方や相手の性格に合わせた話し方に注意している。定期的に研修も行っている。	表情が暗い時や何かを探しているような時は「どうしました？」をスタートに話を聞くように心がけています。本人の意向や意思が確認できれば対応しています。困りごとの手伝いは一緒に行ったり介助をしたりしています。聞きやすいトーンとテンポで目を見て話しかけるよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	実際の会話だけではなく、動きや視線、表情などから思っている事を汲み取り対応できるように努めている。また、意思決定してもらう為にその都度ご本人に意向確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	医療面で必要な対応（服薬等）もあるが、ご本人の希望を優先的にして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴時など、ご本人の希望を伺い着替えの準備を一緒に行うなど、身だしなみ等に気を付けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付けを手伝ってくださる方もいる。お願いしなくても自ら申し出て下さる時もある。嚥下の問題でトロミやミキサー対応の方もいるが、好みや嗜好によって常食でも大丈夫な事もある為、随時対応できるように様子観察している。	朝食は献立作成、食材を購入し調理しています。昼食と夕食は配食サービスを利用しています。作り替えたり利用者の別メニューとすることもあります。パン作りや季節の和菓子、出前を取るなどしています。コロナ禍前は寿司の夕食や弁当を持参した花見などにも出かけています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量、食事量共に記録を付けており、一日のトータルを見て食事や水分を勧めたり引き留めたりお声掛けしている。 ご本人の要望もあるので、医療と相談しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後にそれぞれに応じた口腔ケアを行っている。ご本人の意向で時間を置いてから再度お声掛けして磨いてもらう事もある。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介助が必要な方には個人個人の状態に応じた対応をさせて頂いている。 尿意の訴えがなくても動向を観察し、把握に努めている。	適宜声掛けをしてトイレ誘導しています。夜間もトイレでの排泄支援を行っています。利用者の表情や行動をよく観察し、「どうしました」と声を掛けています。立位が不安定な時には二人介助でも行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や水分補給、牛乳やヤクルト等、その方に応じた予防策や対応を往診医と連携し行っている。 状況によっては医師と相談し、屯用で下剤が追加される事もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴のチェックシートをつけており、長く入っていらっしやらない方からお声掛けさせて頂いている。 ご本人の意向で時間帯や曜日を指定される事もあるので応じている。	一番風呂の希望者の要望に応えるためにも、利用者ごとに浴槽の清掃と湯の張り替えを行っています。入浴を嫌がる人には別日にしたり、散歩や食事を挟んで声掛けするなど工夫しています。浴槽を跨げなくなるとシャワー浴へ切り替えています。本人の希望があれば湯舟に浸かれるよう二人介助で入浴支援を行います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者様の状態に合わせ、日中でも休んでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診医からの指示や薬変更、内服など全職員でその都度対応しており、薬の内容についての理解に努めている。薬局から提供される薬情報は誰でも閲覧できる状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人個人の出来る事出来ない事に合わせて家事を手伝ってもらったりレクリエーションにお誘いしている。コロナの為、散布や買い物等の外出支援が出来ていない。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ以前はご本人希望のお買い物に出たりお散歩に出かけたりしていた。行事として博物館に出かけたり季節の花を見に出る事もあった。初詣や花見など季節感の重視した外出イベントも行っていた。	コロナ禍のため、感染に留意し近隣の人出の少ない時間帯に公園へ散歩に出かけています。コロナ禍でも時期をずらして初詣へ出かけたり、近くの病院の花見などへ車いすの人も一緒に外出支援を行っています。緊急時に備え携帯電話を持って出かけています。玄関前やホーム横の花壇の水やりなど外気浴にも心がけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理はご家族様にお願いしている。紛失のリスクが高いため、ご本人希望でのお買い物などは施設側で立て替えて支払い、後ご家族様へ請求と言う形をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍と言う事もあり、テレビ電話等のオンライン面会も対応している。年賀状が届くご入居者様もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清掃は行き届いており、季節感や落ち着いた雰囲気づくりを大事に飾りつけ等行っている。 行事の写真を貼りだして、見て楽しんでもらったり今後の行事へのリクエスト等に繋げている。	リビング兼食堂は東側に面し、広く明るい共用空間です。利用者それぞれのADL（日常生活動作）を考慮し、移動し易い家具類の配置に配慮しています。季節に合った掲示物で季節感を味わい楽しんでいます。コロナウイルス感染症予防対策を徹底し随時換気も行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席替えや座席配置を工夫し、皆さんがそれぞれ快適に過ごせるように配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居時に持ち込まれた家具や小物類もあり、馴染みの空間が継続できるように努めている。備え付けの家具類（ベッド、カーテン等）も希望があればお好みの物を持ち込んで頂ける。	部屋にはエアコン、カーテン、照明器具、介護ベッド、布団一式などを用意しています。持ち込まれた机やイス、テレビ、置物、タンス等は本人のADLを考慮して配置しています。清掃は週2回行い、掃除が出来る利用者とは一緒にするようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の希望や気持ちを伺いながらその方の出来る範囲で自立して生活が送れるように環境整備に努めている。		

事業所名	グループホーム みさき豊町
ユニット名	二階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関や事務所、更衣室等に会社理念が設置しており、始業時に確認して意識して業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ以前は町内会の集まりなどに呼んで頂き、参加させていただいていた。お散歩やお買い物など、近隣へ出かけていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に向けての働きかけ等、出来ていない。上記の自治会の集まり等でお話させて頂いた事はある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナで開催されていない。管理者が対応している。議事録等はえつらnder		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が対応している。ご入居者様の件などで職員から要望があった時も必要な時も管理者が対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。不安な場合は職員同士やリーダー、管理者と相談して確認している。定期的に研修が行われており、情報共有にも努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修を行い、虐待防止に努めている。虐待の原因を考え、ゆとりをもって支援にあたるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者が対応している。成年後見制度は実際に利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が行ってる。 契約の前のご本人面談調査や見学等の対応時や随時、ご連絡いただき疑問点や不安点を伺い解消に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様、ご家族様どちらにも何でも言ってもらえるような関係づくりに努めている。頂いたご意見はカンファレンスや日常の業務中に話し合い、情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見等ある時はた職員と相談の上、上長や管理者へ伝え、反映されている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社が遠く、会社組織もある程度大きい事から代表者そのものが把握できているか不明である。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職の職員へのOJTや定期的な社内研修などは行われている。 外部研修の機会はコロナの影響もありほぼない。オンラインの研修も少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業他社との交流はほぼなく、他の施設のSNSなどを参考に自己の取り組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談調査などから情報を得て入居後も安心して過ごしていただけるように対応している。 入居後も積極的にお話を伺ったり関わりを持つことで以降の確認や不安の解消に努めたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安な事やご要望など、入居前の情報や入居時のご挨拶時に伺い、どのように対応していくかなどご説明させて頂き安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前情報を共有しておき、入居時に改めて確認させて頂き、何が必要か等、お話し出来る支援をしているように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1人1人の状態の把握に努め、出来る事を行っていただき、一緒に活動している。また、ご要望があれば対応可能な範囲で応じている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居者様の変化やご様子をお伝えし、入居前の様子や性格などを伺ってともに今後の生活の支援について考えて頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナでうまく対応できていないが、遠くから親族さんが見えたり、馴染みの民生委員さんが面会に来てくれたりしていた事もあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの方の性格や状態の把握をしており、状況に応じて席替えやお声掛けで数名で外に出たりなど、ご入居者様同士の関係性に気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後の関係はあまりとれていないようだが、ご要望があればいつでも対応は出来るようにしている。 ご近所に住まわれていたご家族様などはお見掛けされると挨拶して下さる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思伝達できる方は直接伺ったり日常会話の中から拾い上げたりしている。 難しい方は表情や行動の中から思いを寄せ、推測し他の職員とも話し合っ検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報やご家族様とのやり取りで伺ったりするなど、情報把握に努めている。また、得られた情報は申し送るなどして共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の情報ファイルや生活記録をつけており、様子観察に努めている。また、出勤時に申し送りと合わせて生活記録を振り返る事で状況の変化等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングやカンファレンスを行っている。また状況変化に応じて随時、カンファレンスを行う事もある。その内容をケアマネージャーにあげ、ケアプランへと反映させている。ご家族様へは暫定案を提示し、説明同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の生活記録をつけており、申し送りと合わせて情報共有している。口頭での申し送りと合わせて出勤時に見返している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期通院にご家族様が対処できない時に職員が帯同するなど、状況に応じて臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ以前は地域のイベントボランティアさんや自治会の行事に参加していた。コロナ以後、地域と関わっていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には施設の往診医を受けている。ご家族様のご希望や医師の指示で外部受診へつなぎ、付き添いなどの対応もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、訪問看護師が来所して健康管理をメインにご入居者様へのアドバイスなど含めて相談させてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医からの情報提供（紹介状）と合わせて施設での様子なども申し送っている。退院に向けて、病院のソーシャルワーカーやご家族様とも連絡と取り合っており、		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に差し掛かりそうな時にリーダーを中心にご家族様とご本人お話し合い、看取りや延命について相談させていただいている。また、入居時契約時にも予めお話しさせて頂いており、認識しておいていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	リーダーを中心に研修を行っている。マニュアルもある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行っている。コロナ以前に地域との協力についてはしていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護をしてあげる、と言う気持ちで介助を行わないように人生の先輩として尊重して対応に当たっている。 声掛けも分かりやすく聞き取りやすい会話を心掛け、話しやすい空気作りなのにも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれのご入居者様に合わせた声掛けを心がけ、話しやすい雰囲気作りに努め、思っている事や希望が表現しやすくなるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の調子を常に観察し、それぞれに合わせて午睡や外出など気分転換に努めたりやりたい事があれば付き添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時等、自己判断できる方には一緒に服を選んで頂いたり、出来ない方にはそれぞれに合った洋服を選ぶ等、気を付けている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの趣味嗜好やADLに合わせた食形態を取り入れ、長く楽しんで頂けるように心掛けている。配食サービスを使ってはいるがご要望に応じて変更もできる。調理や片付けなど後片付けなど、可能な方にはお手伝いしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に水分量と食事量を記録しており、不足している方や接種が難しい方などは形態を変更したり好みの物に変更してお勧めしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科衛生士の指導も含め、個人個人に応じた対応をしている。ご自分で出来る方でも歯科衛生士からの指示があればお声掛けして一部介助し、口を開けられない方は口腔スポンジを使うなどしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄介助の記録をつけており、自立の方も様子を見てお声掛けして確認させてもらうなどしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自立の方も含めて排泄後にお声掛けして確認させて頂き、状況の把握に努めている。 便秘気味の際は水分を多めにとっていたり、医師と相談して下剤の調整を行ったりしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	自立されている方にはお声掛けして希望の時間帯に入浴していただいている。入浴を希望されない方には様子を見てお声掛けさせて頂き、タイミングを見て清拭など含めて対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	疲れていそうな時など、昼夜問わず様子を見て横になって休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診後等、お薬の情報提供があるので職員間で情報共有しお薬の把握に努めている。内服時はダブルチェックして誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	過去の生活歴や今のADL等に気を付けて出来る事をお願いしたり、レクリエーションに参加して頂いたりしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナで外出そのものが難しくなっている為、玄関前のプランターへの水やりや日光浴くらいしかできていない。以前はお散歩や買い物など行っていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理はご家族様か施設側で行っており、ご入居者様個人では行っていない。また、買い物時は立て替えて支払い出来るがコロナで対応できていない。以前はお買い物に出て希望の物があれば買ったりしていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持ち込まれている方がいらしたり、ご希望があれば施設の電話を使って頂いている。年賀状が届く方もいらっしゃる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った飾りつけや温度調節など行い、過ごしやすく季節感を感じてもらえるように務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間じたいが狭いため、限られてしまうが、座席配置や向きなど工夫してその時その時のご様子に応じられるように努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具など持ち込んで頂き、馴染みの環境を継続できるように努めている。また、ADL等の状況に合わせて居室内のレイアウト変更をする事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室から出るとすぐにリビング全体が見渡すことが出来、動線も単純なため迷う事はない。動線上に物を置いておく等、起きないように努めている。		

2021年度

事業所名 グループホーム みさき豊町

作成日： 令和4年6月1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人理念を事業所の基本理念としており、管理者と職員はこれを共有し利用者の意向に沿った支援を心がけています。事業所独自の理念は作成していない。	今後、職員間で意見を出し合い、簡潔で分かりやすい事業所独自の理念を作成し、管理者、職員で共有し実施に結びつける。	職員会議等で提案し意見を募集する。そこから得られた物をまとめ、理念を作成する。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月